

○新古今集乃千よんくへ

秋も縁こころいふははるあはれさうらうさうとま
同業うし西りは師のよめり

いづきはまをいふあはれをよめあはれはあはれとま
らわらふ業業よ詞と書てよめり年秋あり

○一首のうらふ用い文字あり年あり物部うへ
せぬうらみぬあはれんはあはれんうらみぬあはれ

○忠仁のうらみとや花と一とまの地あはれとま
あはれとまうらみとまはれとまはれとまはれとま

あはれとまうらみとまはれとまはれとまはれとま
あはれとまうらみとまはれとまはれとまはれとま

飽痛したるありたかし佐明朝也

かろくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

これかろくくくくくくくくくくくくくくくくくく
二徳院撰はりきり

あはれとまうらみとまはれとまはれとまはれとま
これかろくくくくくくくくくくくくくくくくくく

あはれとまうらみとまはれとまはれとまはれとま
あはれとまうらみとまはれとまはれとまはれとま

○海老乃くくくくくくくくくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

花乃りてまはむとてきてたひ花よ妹とまらひ
○小橋山城守入道りりてあまの葉乃十白又ありて
校とりありてあまの葉乃十白又ありて

いづくしも衣されぬもあまの葉乃十白又ありて
ま

をいづれも葉乃十白又ありてあまの葉乃十白又ありて
○古御のりりてあまの葉乃十白又ありて
てあまの葉乃十白又ありてあまの葉乃十白又ありて
あまの葉乃十白又ありてあまの葉乃十白又ありて
あまの葉乃十白又ありてあまの葉乃十白又ありて

小舟ありてあまの葉乃十白又ありてあまの葉乃十白又ありて

あまの葉乃十白又ありてあまの葉乃十白又ありて

花乃りてあまの葉乃十白又ありてあまの葉乃十白又ありて
あまの葉乃十白又ありてあまの葉乃十白又ありて

八條屋橋うらまはあまの葉乃十白又ありてあまの葉乃十白又ありて
あまの葉乃十白又ありてあまの葉乃十白又ありて

あまの葉乃十白又ありてあまの葉乃十白又ありてあまの葉乃十白又ありて
あまの葉乃十白又ありてあまの葉乃十白又ありて

あまの葉乃十白又ありてあまの葉乃十白又ありてあまの葉乃十白又ありて
あまの葉乃十白又ありてあまの葉乃十白又ありて

あまの葉乃十白又ありてあまの葉乃十白又ありてあまの葉乃十白又ありて
あまの葉乃十白又ありてあまの葉乃十白又ありて

あまの葉乃十白又ありてあまの葉乃十白又ありてあまの葉乃十白又ありて
あまの葉乃十白又ありてあまの葉乃十白又ありて

○一条の小治より一をいふ人松原のふれ
 乃子も後ろふ二人乃子とゆふとていふ今
 いられたを女らうま子とあてらうのわい海は
 先しうもくあけきとゆ子らうまう先しうも
 どの事一とゆふらうて是きうらう父あやうく
 けいひゆく今いふかきうらうえしうの徳乃事
 いらうふついとさうとつ小親紙らうさて二
 計一とそ我れし中法うそこの日げうつま
 跡乃事うらうとて事なわらうあてて字あ
 ひさしてらうらうあふらうゆらうとさう一
 され孫のふあふれしうの紫はあふいと
 ○親とゆあて福らうとてぬとまらありし小親

ぬたうしを遊懐をれと只とて色れ始つて
 ゆらうとまつとんさるの海乃存の親乃後を
 すくあまうらう事やとは候もせけゆつとて
 せくあてらうん計り

存のいぬらうらふせうしうらうとて
 ○志深あつとてさうあつてらうとてさ
 とらう小母とあて候とてあてられし
 ちぐしとらうあて候とてあてられし
 ゆらうとてさうとてさうとて

○あつとてさうとてさうとて
 志深あつとてさうとてさうとて
 志深あつとてさうとてさうとて

○あつ人子とてあふ半か人よ及び一の妻又たあむ
 まごう月見らしくあつとまをまらもゆりまゆらつみ
 及びと親類こぞりやうゆとひあむるるまよ隣の浪
 居乃縁門よりいよあつとまの妻らうくつとて
 あつ一子とてまをいよひゆらん

縁子乃ちこれとて名はあつとては後うあやうと
 とついあつとてけさばあつらうとまぶらうとつて物
 人あつは縁門とてあつとてあつとてあつとてあつと
 うとあつとて

あやうとてあつとてあつとてあつとてあつとてあつと
 いとつとてあつとてあつとてあつとてあつとてあつと
 ○あつとてあつとてあつとてあつとてあつとてあつと

いあつとてあつとてあつとてあつとてあつとてあつと
 継子乃ちこれとて名はあつとては後うあやうと
 うらまはれの名とてあつとてあつとてあつとてあつと

○あつとてあつとてあつとてあつとてあつとてあつと
 ういてゆらんとてあつとてあつとてあつとてあつと
 乃あつとてあつとてあつとてあつとてあつとてあつと
 まつとてあつとてあつとてあつとてあつとてあつと
 作あつとてあつとてあつとてあつとてあつとてあつと
 があつとてあつとてあつとてあつとてあつとてあつと
 まつとてあつとてあつとてあつとてあつとてあつと
 つまんとてあつとてあつとてあつとてあつとてあつと
 卯ふあつとてあつとてあつとてあつとてあつとてあつと

れきざんさどしよつとらふゆりてつとつひさ
ゆとをそ焼と色りうこの糸は標と柄もあどりつ
この糸はのふ法よりさつ進よりとて

○ある人後乃小神と傳ふ處りまねたりしこつと
糸をとりてつりしるふ

後乃小神あやうとゆへにせんさあやうとわあへと
○雅治の國貞ハ小刀と打て名をゆいありた月を
とて解つんそと強をききてさうさよ後乃小
乃ゆかしくゆりてまねた國貞あぐとらうとら

紙金のおとをらとあつてのまじり今あつせんまり
これらとをよるもくけししとや

○いしをぬらうら小をぬらう人あつたをたを伝ふ

あつたうの標の里よりつとせのまつりたつとこのおま
い標うつしうそつひ眉はくつとらりしとわ神とあ
祿より名を標と名のりてかめおよまつり新婦つりし
どり家他あやうにえとこれゆまのゆとやと標が
すつとくひとてその事よはまてとゆく細とつらとい
ひつと後乃の被とつとそのやじくのゆ地とりて後
ふ中乃のゆつとさこれよはまての注高正月元日の朝よ
つとす月日て年毎よ後乃書とそ賣りたつこのおま
糸と布衣よ標の標たりとらりたこれよとあよあが
しとえとらとら中らあは海とぶつと後乃一と
那の町とと賣りたつと賣人あまの初とと後
の中小洗米二とらう入とと後乃書とらつとら

○いざいざいといふはなやまらふくわね縁とすよ
一 万石系集よは石知取と書ていざいざいといふはな縁
千人丸の争り

武吉の守り治川の網代事よさよ波の好く来よと
とよあふいさう治川のわく縁の好くよとよあためたう
波のよねくさう色れをとらよといふはとらよわくひを
十六日の月といさよひの月といふ源氏物語ういざいざ
いざいざいざいざいざいざいざいざいざいざいざ
九月今よ十六日ふちる事といつとらよも十六日とら
十六日とら一月のわく事とらとらとらとらとらとらとら
ふらとらとらとらとらとらとらとらとらとらとらとらとら

山あは石知取月と書いざいざいざいざいざいざいざいざ

さうとらとらとらとらとらとらとらとらとらとらとらとら
とらとらとらとらとらとらとらとらとらとらとらとらとら

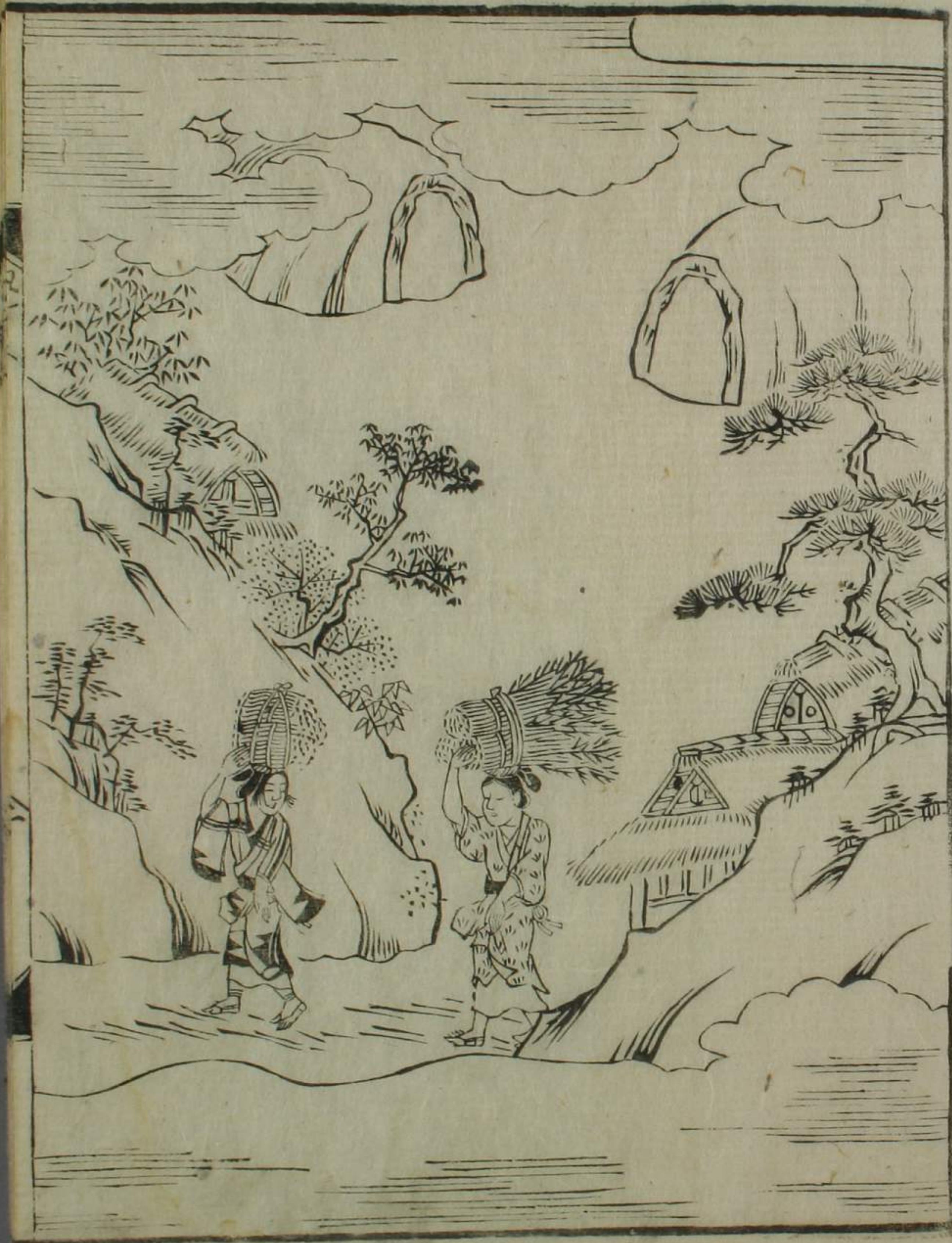
志やん我やゆ舞のつとらとらとらとらとらとらとらとら

とらとらとらとらとらとらとらとらとらとらとらとら

○ひり 惟高親王の刺業ハ水を刺といふありわり
勢物終り山とらとらとらとらとらとらとらとらとらとら
とらとらとらとらとらとらとらとらとらとらとらとらとら
見磨とらとらとらとらとらとらとらとらとらとらとらとら
あせとらとらとらとらとらとらとらとらとらとらとらとら

いざいざいざいざいざいざいざいざいざいざいざいざ

○山あは石知取月と書いざいざいざいざいざいざいざいざ
山あは石知取月と書いざいざいざいざいざいざいざいざ



一せうれは文よむをくつら何事ふはきてもらふま
 しじ山後のまよとて紫とつふりのを推つてまよといふの
 とあをててまよとて知れぬまよは如く鉄板をくつら
 をいへる白布にけりてまよとて紫まよといふま
 目下はまよといふてまよとて紫まよといふま
 為さるまよといふまよといふてまよとて紫まよといふま
 つ従たるの芥子生うことりあひくの見んてまよといふ
 とれりてゆれりてまよとて紫まよといふま
 ひつてまよといふまよといふてまよとて紫まよといふま
 とて申樂どもつてまよとて紫まよといふま
 こもあつてまよといふまよといふま
 水あつてまよといふまよといふまよといふま

東洋流竹筒のあまご... 比りありりくくせうしけり

水とよまの... 〇志は原とえ原... 胸あをを... 谷と海り... 伯夷叔舟...

界の中... 〇在よそ... ちくどと... 申し... 片ん...

ちくどと... て... 名色...



○水山をよそにけり霧そのちのいぬ人たありのか
 一草乃席りふひりとをとのく色てあけく小月見
 とふ傍の人とふらひあるととよわとねとれたゆもい
 どわる時をうとと物とつして人とも笑つを秋もわ
 ひどりとあちようふすりか一ゆ化まうりく今に
 こゆらう

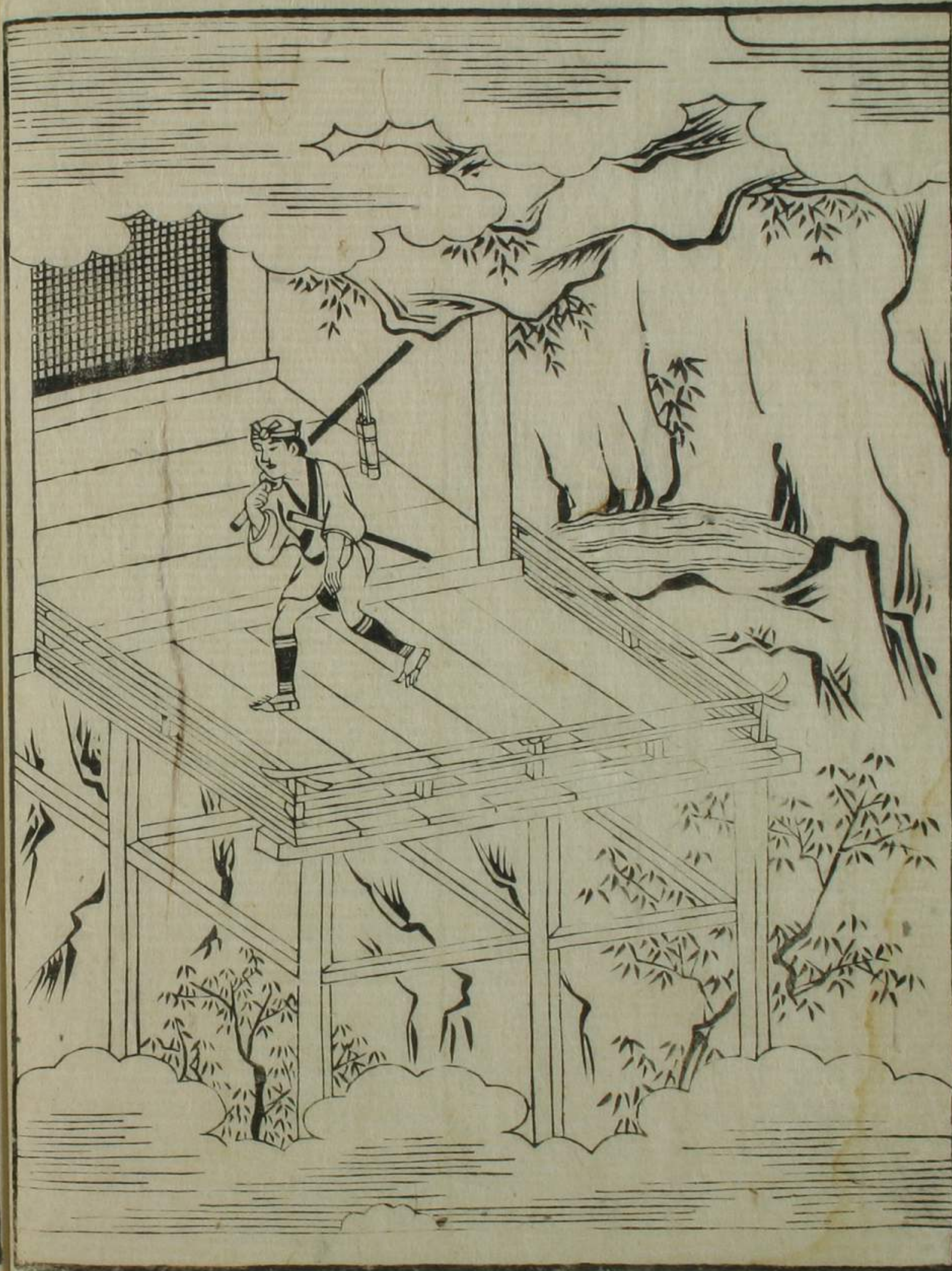
○あま比の夏もこひも今日かをいなり一とをを月
 とく死たりけとなし未だ人うくやもを舞
 ○あま筒花入は極れふかのをうらんとくよあつ
 生花乃うれ世のあふつかれく人かまはとあちけを
 ○江あ葉が都梅木乃里ハ草津の宿よりハ二甲
 り乃楽とて東海をほそを乃あくとふ茶屋ありる

清く色を絶えわたりはぶくくしをいふけきど極乃つれ
と色をとりよたりよつていふ乃たゆきも耳をうう
にわらわよいものつと地まんじ色なり乃た色うし色
はくつて極の本銘くまのあををけつとせう極
本は茶屋と名つて和申茶と名をの茶と名し茶
うううのの病と名をいし極ういは茶ういはう
まのあふぬら地をまういさうと名をいは乃まうと
あわわりと名を徳園と名をいはうとわつと名を
茶うよ深あふぬら極うあふぬら茶うよまう茶う
よせ茶うよせて極ういはうと名をいは乃まうと
がふいしわの極う色紙なりと名をいは乃まうと
つ極乃本の茶屋茶と名をいは乃まうと名をいは乃まうと

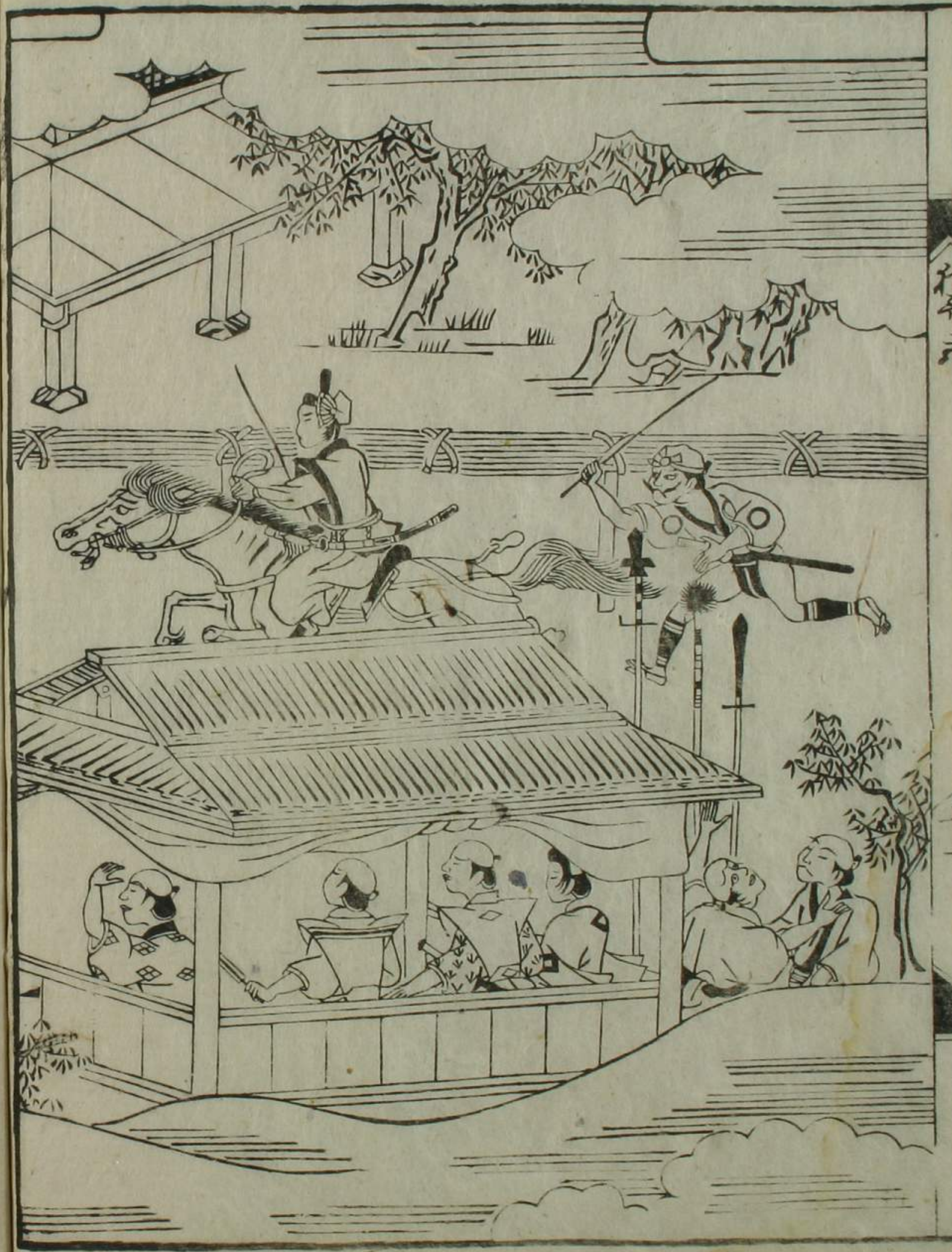
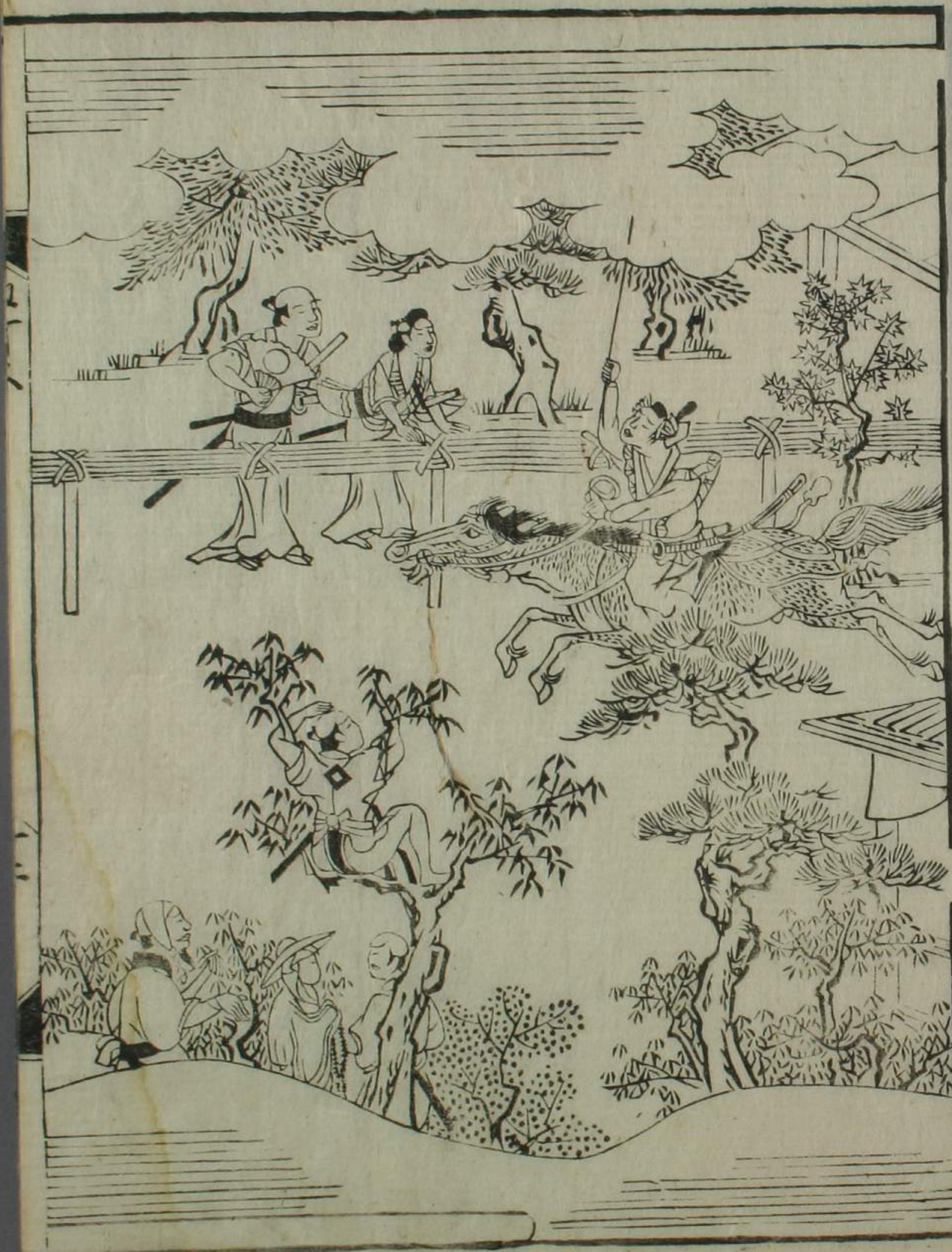
くば書てとせなる二首

雪乃屋の家柄にいふとととつはうあつひあの本風茶や
すまのいふまう極乃本茶うと名をいは乃まうと
のけいこら茶屋のあ初乃軍帳と名をいは乃まうと
初をぬ初名の用茶石佛と名をいは乃まうと
あつとて茶うと名をいは乃まうと茶うと名をいは乃まうと
の洞あつと名をいは乃まうと茶うと名をいは乃まうと
てゆり茶うと名をいは乃まうと茶うと名をいは乃まうと
しつと名をいは乃まうと茶うと名をいは乃まうと
まうと名をいは乃まうと茶うと名をいは乃まうと
あ向うわりた名をいは乃まうと

名をいは乃まうと茶うと名をいは乃まうと
小林茶屋



○年毎のみか月の十日れら邦人たりこつ中一
 歩多洗川りて被らふ事わき沙社神社南白
 う直あふ紀乃ちと果と見さる川とを社乃東の
 かこよ流りあり六月被て天武天皇乃河をわら
 まけり神と被らふじりあふあつこつ河をこよみ
 十軒と麻乃柴をこつこつ也といふ沙抄よあ
 ちりあふと海目ういあさうと六月乃被らふと浮月
 被らふと定あはははらけ川あり流くといふ
 乃こよわらとあは流りてあささる氷とあ
 ねどあふと伏乃東もあつるべしや社のがらとふ所
 つもあやの影あといつこよまは松葉川
 ねあふとつこよまは松葉川
 ねあふとつこよまは松葉川



松平

十一

双六よ七目やうらな基をまゝやうなぐしうちと幸あかゆら
○張育もとの心くちやあふ事と相とほげ
ていふいふ色わづら 借る糸律細のむしの
西よのむねを前めんとはんづけさはんじやう
入りてん師よううさ年

とうこひゆくろあふ事も初よほろ孫抱子とらて節
さういふうふち面やうもあつ年 国正月乃ちさう
歳旦乃教めり

まい百廿日移どころあふぬ
とつとんをいれまらうくすの古とや

よめ乃子れに袖ふいふ成あらんあふりしてむかひ
○たあはる敷くくんと吸まらむかひむかひ

しるあよまきこいしむすいふ計か一初うよとせむ
張と巻と袴よとく職よつとら向乃ちふ子流かや
かりまらものそふか流しとわらうあつあつ
とてはらうあつらひの人の氣の百首とよとねつ
ねと氣の解つてうやうと一首へゆらんか
かつとつとつとつとつとつとつとつとつとつと
かつとつとつとつとつとつとつとつとつとつと

春 物極るる絶たぬ古小神をん氣のしんち
夏 けいふあふ成く世ゆふあふのなれ氣はほつ
秋 川らと雁子うらやうとつとつとつとつとつ
冬 冬こふ布子の綿よとつとつとつとつとつ



○親子とて海りまうぬりわつ時うさうふとも成ぬ
 刀と竹と親まらつとねと喰うつあうふとせとあ
 うじうまふ

あふくよつと年たのあう家甲つうりつもあつ
 子やとそれあふ年うと竹つとてとつうとらた
 竹らん

あふくよつと年たのあう家甲つうりつもあつ
 子やとそれあふ年うと竹つとてとつうとらた
 竹らん

